

岩手教区報

第322号
 立教182年10月1日
 天理教岩手教務支庁
 盛岡市馬場町3番40号
 TEL 019-622-7962
 FAX 019-623-9597

今年5月末、秋田県鹿市を会場に、「災害救援ひのきしん隊東北・北海道ブロック訓練」が開催された。岩手教区隊は18名が参加して、有事に備え教区間の連携と訓練に励んだ。

来る立教184年、災害救援ひのきしん隊は結成50周年を迎える。その記念大会の概要は、東礼拝場でお礼のおつとめを勤めた後、移動して記念式典を行うとのことである。

思い返せば、結成30周年記念大会の時は、広大な白川地区の一角に、全国の教区隊からお供えされた苗木を植樹させて頂いた。その10年後の結成40周年を迎える直前に東日本大震災が発生し、記念大会は中止となり、即時出勤という事態となった。マグニチュード9.0の大地震により大津波が発生し、死者・行方不明者は1万8千人余、避難者は40万人以上という未曾有の大災害であった。

当時の岩手教区隊の故大谷将司前隊長は、自教会の被害が軽微だったため、直ちに隊長としての任務に当たった。前年、教区訓練の会場になったことで信頼関係にあった釜石市と早速連携を取り、同市での救援活動を段取りよく組み立てたことで、それ以



主事・災救隊隊長

佐藤 一三

教えに基いたひのきしんの実践を

降の復興支援活動を順調に進めることが出来た。あれから8年半が経つ。復興は未だ道半ばの感もあるが、明るい話題も見えてきた。被災教会の気仙分教会が昨年神殿を竣工した。目下、東山田分教会が神殿ふしんを進めていて、来春竣工の予定である。

近年、想定外と言われる自然災害が至る所で発生している。今年8月に九州北部豪雨が、翌9月には台風15号による千葉県の被害が記憶に新しい。私達が今まで経験したことのない災害が、何時何処で発生しても不思議ではない。そして、その度毎に規模や内容こそ違えど、各地の災救隊員が救援活動に奔走している。

真柱様は、大きな災害が起こらない御守護を頂けるよう、日々のひのきしんの心掛けが大切であるとお示し下さっている。災救隊の活動は、正に教えに基いたひのきしんの実践でもある。

私事であるが、一昨年から再三身上のお手入れを頂いたことで、以前のように身体を動かすことが難しくなったが、御用にお使い頂ける喜びを胸に、これからは災害のない世界を日々祈り、報恩感謝の心で救援活動につとめて参りたい。



「失って分る大切なこと」

人は大切なものを失ってはじめてその尊さ、有難さに気づく事が多い。

双生児でタレントの「おすぎとピーコ」をご存知と思う。以前、服飾評論家でコメンテーターとしてもテレビや講演、執筆にと活躍していた兄のピーコさんは、平成元年頃、左眼にマリグラント・メロノオマという30万人に1人の癌、脳や全身に転移しやすい悪性腫瘍を発症。迷ったあげく、命と引き換えに左眼を摘出する決断をする。術後、医師から、「5年間は神様がくれた猶予期間だよ」と言われ、ピーコさんは初めて自分の命の限界を自覚すると共に、これからの与えられた命をどう生きようかと考えた。それはまた、今までの自分の生き方を振り返

ることでもあった。つまり、これまでのピーコさんは自分にとって都合の良い事、楽しい事、自分本位の事しか考えないで生きて来たのに、家族や知友の多くがどれほど自分の事を心配してくれていたかを知り、自分ひとりの満足のみにのみ生きて来た我が悪かさに気づいた時、自分の中に大きな変化が生じたという。例えば、これまで買い集めた高価な装飾品など惜しげもなく他人に与え、どんなダイヤより道端に咲く草花が美しく感じられるなど、物欲は無くなり、他人を思いやる心が深くなったと言う。ピーコさんは左眼を失ったが、今まで見えなかった大切なことが見えて来た。

「神様は私に死ぬ時を教えてください。私に死ななさいと今日一日を精一杯生きることしかなさ。明日に向けて精一杯生きる今、その精一杯は自分の為でなく、人のために命を使おうと決意してから、余命5年が既に31年も生かされている。まさに人を救いたい心は自らが救われる心でもある。斯かる陽気ぐらしの奥義が伝えられたのは、天保9年10月26日、本教が始められた元一日である。

「ようぼく成人講座」開催報告(9月分)

三陸14日(土)吉里吉里分34名(講師 崎山道範)
 東磐15日(日)猿澤分 16名(講師 檜野由美子)
 盛岡16日(月)教務支庁21名(講師 崎山道範)

「ようぼく成人講座」開催予定(10月分)

奥州13日(日)紋膽分9時半(講師 高橋邦和)

計報

鈴木 豊 (90歳)
 一関支部・長坂分教会5代会長
 令和元年9月28日出直された。

行事予定

- 1日 少年会例会(12時)
- 2日 主事会(9時)
- 役員会議(10時)
- 4日 学生担当委員会例会(19時)
- 6日 女子青年例会(10時)
- 12日 青年会例会(18時)
- 13日 婦人会例会(10時半)
- 15日 災救隊剪定ひのきしん(16日)
- 16日 岩手教区小史編集委員会(10時)
- 30日 教会長夫妻研修会(10時)

【10月分】

「教会長夫妻研修会」
【10月30日】

道の先達たる教会長・教会長夫人が、自信と誇りと勇みをもって、にをいかけ・おたすけに邁進できるよう、「教会長夫妻研修会」を開催いたします。教会長、教会長夫人は万障お繰り合わせの上、必ずご受講下さいますようお願いいたします。

記

日時 10月30日(水) 10時～15時
会場 岩手教務支庁
内容 講話、質疑応答、感話
講師 岩井喜市郎先生(櫻井大・士別分教会長)
対象 教会長及び教会長夫人
服装 ハッピー、ネクタイ(女性はそれに準ずる)
受講費 千円(夫婦で受講は2人で500円)
申込み 受講者を支部でとりまとめて10月10日まで
※講師の著書の販売があります



学生担当委員会

「道の学生ひのきしんDAY」

報告

教区学生会(高野慎司委員長)では、去る9月16日、「立教182年道の学生ひのきしんDAY」を実施、4名(学生会員3名、担当者1名)が参加した。

10時に集合して参拝の後、盛岡城趾公園に向かった。そして、公園より中津川河川敷を歩いて、ゴミ拾いのひのきしんに汗を流した。昼食後、教務支庁内の片付けのひのきしんをとつとめ、午後1時半解散となった。



婦人会

「第29回女子青年大会」団参

【11月1日～4日】

来る11月3日(日)、第29回女子青年大会がおちばで開催されます。

教区婦人会では、左記の通り団参を実施します。をやの声を聞かせて頂く絶好のチャンスです。岩手に住まう若き道の台を一人でも多くおちばにお連れ致したいと存じます。

なお、お楽しみ行事として「BBQで女子会」を企画しています。是非お声掛け頂きますようお願い申し上げます。

記

期間 11月1日(金)～4日(月)
参加費 2万円
宿泊 名京詰所
持ち物 洗面具、お泊りセット、他
問合せ 女子青年担当・門間初子まで
※途中参加、現地参加も可能です

「創立110周年決起の集い」を了えて
～4会場 595名が参加～

婦人会主任 加藤早苗

岩手教区の「天理教婦人会創立110周年会員決起の集い」は、9月1日の教務支庁会場をもって、全4会場が無事終了しました。開催を重ねる毎に参加人数が増え、教務支庁会場では211名の参加を頂き、総数は4会場で595名に達しました。

この「集い」は婦人会の行事でありませんが、教区や各部各会の行事に最優先して、日程を組んで頂きました。会場は、各支部長先生が交通の便や駐車場の確保など、種々考慮して決めて下さいました。またプロジェクターの設置や操作、記録



写真など細かな準備と実務も多々ありましたが、諸先生方のご協力のもと、大変スムーズに事が進みました。教区婦人会は、4月から新任の支部主任も加わり、実務担当者が中心となって準備と打ち合わせを重ね、ご参加下さる婦人会員に喜び勇んでお帰り頂けるよう、「笑顔あふれる会場」を合言葉につとめさせて頂きました。

感話をおつとめ頂いた8人の会員も、この御用を頂いたことを喜びに一生懸命つとめて下さり、それぞれの悩みや苦勞、そしておたすけ体験など、感動と感激のお話が相次ぎました。

そして、各会場の特色を生かして細部にわたって心を配り、支部主任と委員部

新任教会長紹介



荒澤分教会

〔小南部大・二戸支部〕

羽澤道広

昭和52年8月29日生

前任者羽澤憲一氏の辞職に伴い、6代会長としてお許しを戴いた(9月26日)。就任奉告祭は10月20日。